

野口 健

ken NOGUCHI

登山家



人生の一番最初に抱いた夢は、
カメラマンになることだった。

影響を受けたのは小学校低学年のときに観たテレビドラマ。報道カメラマンが日々の仕事に追われながらもライフワークとして「鶴」の写真を収めようとする物語です。妻を亡くし3人の子供を育てながら、ガムシャラに夢を追いかける生き方がとても眩しく、憧れていたのかもしれない。中学、高校は写真部に所属し、土・日は1日中暗室にこもって夢を膨らませていました。しかし、その時、山登りと出会い、気がついたら登山家の道へ。いつしか「撮る側」から「撮られる側」へ変わっていたのです。

藤巻さんと出会い、
写真の素晴らしさを再認識。

藤巻さんと知り合い、二人でヒマラヤへ登った時、彼が嬉しそうに写真を撮っているのを見てとても刺激になり、写真の素晴らしさをあらためて感じて、本格的に始動しました。

藤巻亮太

ryota FUJIMAKI

ミュージシャン



ステージ演出として、撮影した各地の
写真を投影したことをきっかけに。

2010年にレミオロメン全都道府県ツアーのステージ演出として、各会場でメンバーが撮影した各地の写真を投影したことをきっかけに写真の力を感じ、そこから本格的に写真に興味を持ち、撮り始めました。

世界の広さ、美しさから
大きなインパクトを受けた。
興奮を発表する「夢」がなかった。

アルピニストの野口健さんが、ものすごくいろんな旅に誘ってくれて、その経験は大きかったですね。ヒマラヤ、アフリカ、アラスカ、アイスランド、ソコの節目から相棒のカメラと様々な旅をし、世界の広さ、美しさから大きなインパクトを受けた。その旅の興奮を今回、写真展 / 写真集というカタチでまとめ、発表する「夢」がなかったのです。是非、みんなに観てもらいたい作品です。



野口 健 x 藤巻亮太 100万歩 写真展



登山家とミュージシャン

写真で感じる、
野口 健と藤巻亮太の魅力。

見どころ
ガイド

写真左：エベレストのベースキャンプ入口（野口 健）

写真右：アメリカ最北端、ポイントバロー、北極海とクジラの骨（藤巻亮太）

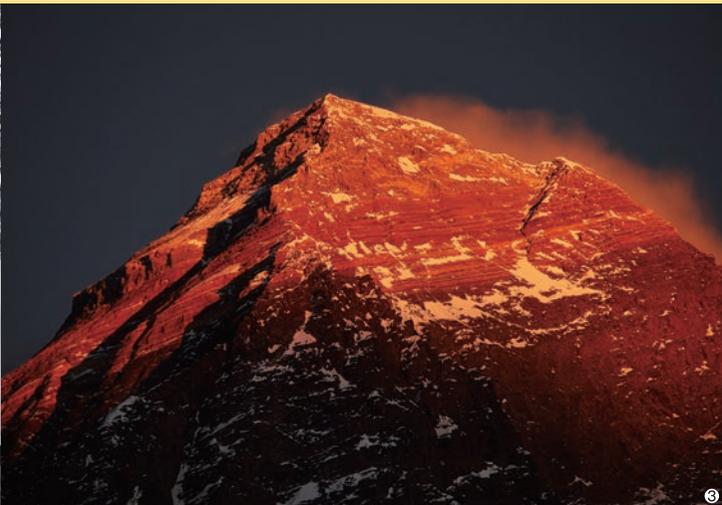
登山家 野口 健の想い

地球の素晴らしさと現実、感じたままを届けたい。



ミュージシャン 藤巻亮太の想い

世界の広さと美しさ、湧き上がる感動を伝えたい。



野口 健 | 史上最年少で7大陸の最高峰を制覇。山のゴミ問題解決やネパールの子供たちの学校プロジェクトなど、幅広く活動する登山家。

- ① マナスル山麓のサマ村の子供たち
- ② 鼻と鼻をこすり合わせて会話をする象の兄弟セレンゲティにて
- ③ 真っ赤に燃えるエベレスト

藤巻亮太 | レミオロメンでヴォーカルとギター、作詞作曲を手がける人気ミュージシャン。バンド活動休止後はソロとして活躍中。

- ④ ケニア、マサイマラの草原に降り立つ、荷物を運ぶマサイ族
- ⑤ カメレオンは恐竜だ、ウガンダ、ルウェンゾリ
- ⑥ 2011.9.12 マサイマラ、気球と満月

見どころ 写真で感じる二人の魅力

山々への挑戦、さまざまな支援活動、行動派で物事を真正面から捉えるストレートな写真の野口 健さん。シンガーソングライターとして人々の共感と感動を呼び、写真でも繊細な心の内を表現する藤巻亮太さん。登山家とミュージシャン、全く違うジャンルでありながら呼応する二人。それぞれの視点で捉えた写真のメッセージを感じてください。



写真をを感じる旅に出よう
野口 健 x 藤巻亮太
100万歩 写真展

見どころ 大きなプリントならではの迫力

二人の作品が大きなプリントで観賞できるのも写真展ならではの見どころです。ヒマラヤ・アラスカ・アフリカ・アイスランドなど、世界各地を歩き、多くを感じて捉えた約100点の写真。作品から一歩離れて眺めたり、近くに寄って細部を凝視してみたり、ぜひ、ゆったりと観賞してみてください。風、光、色、音、匂い...そして二人の伝えたかった想いを感じてください。

登山家とミュージシャン、親友二人が世界を歩いた100万歩の想い。それぞれの視点で捉えた、写真のメッセージを感じてください。